

一般社団法人 頸草塾ブックレットの出版にあたって

多くの皆様のご支援により一般社団法人 頸草塾のスタートを切ることができました。

さて、この国の政治や社会の現状を見るにつけ、ますますリベラルの視線を持ち続けていくことの重要性を強く認識する次第です。

その思いで各種講演会を積極的に開催し続けていきたいと思えます。

このブックレットは、頸草塾の会議等でお話いただいた講演録を中心にお届けするものです。

皆様のご活動の糧に少しでもお役に立てれば幸いです。

一般社団法人 頸草塾

代表理事 齋藤 頸

【講演講師プロフィール】



佐藤 優 (さとう まさる)

元外交官、文筆家。埼玉県出身。

ノンキャリアの専門職員として外務省に入省。

ロシア情報収集・分析のエキスパートとして活躍し、

「戦後最強の外交官」「外務省のラスプーチン」などの異名をとった。

同志社大学神学部卒業、同大学院神学研究科修士課程修了。神学修士。

2002年5月、背任容疑で逮捕。同年7月、偽計業務妨害容疑で再逮捕。

無罪を主張するが1審で有罪判決、2審で控訴棄却、2009年6月30日
日上告棄却。懲役刑が確定したため同日付で外務省職員を失職する。

1審判決後、事件の内幕や背景などをつづった著書『国家の畏』を出版する
(第5回新潮ドキュメント賞受賞)

第38回大宅壮一ノンフィクション賞

第59回毎日出版文化賞特別賞を受賞

激動する世界と日本

講師 佐藤優氏 (元外務省主任分析官)

【齋藤】 皆さん今晚は、本日は勁草塾設立記念講演会にご出席下さり有難うございます。齋藤勁です。現職の政治家の時から任意団体として勁草塾として各種講演会に企画・開催をしてきました。このたび気持ちも新たに塾活動を積極的に関わって行きたいということで、一般社団法人化に取り組みこの春設立登記をしました。本日は第1回の活動であります。

今日お手元の封筒の中の、グリーンのパフレットの説明をさせていただくと、世界の政治・経済・社会問題の調査研究や情報提供、そして多様な分野間の交流やセミナー事業を通じて、今の時代を切り開く人材の発掘と育成をはかっていくために、一般社団法人「勁草塾」を設立ということです。

組織・構成のご紹介では、私自身が代表理事として就任させていただいておりますが、後ほどの懇親会で本日までご出席の理事さんについてはご紹介させていただきます。なお、顧問として元財務大臣の藤井裕久さんをはじめ、元国連事務局次長であった明石康さん、元参議院議員の藁科満治さんにもご就任いただきました。

そして、社団法人を支えていただくために、個人・企業・団体として会員になっていただき、情報紙の提供とか、催し物を行うとき

は出来るだけの割引をするとかを心がけたいと思います。内容としては、塾の開催・政治家の育成・国際交流事業・あるいは調査研究・講師の派遣と幹旋、情報紙の発行などという事で、当面はこの神奈川と東京を拠点といたしまして、勉強会・セミナーを開いていきますので、素晴らしい講師陣の派遣についても広く国内から派遣のご要請があれば、幹旋させていただく事を考えております。

また、パンフレットの片面を見ていただければ、今日は神奈川のオープニングについて佐藤優さんをお願いし、東京のオープニングについては寺島実郎さんに記念講演をお願いしております。寺島さんは神奈川でもご講演をお願いしましたが、5月19日憲政記念館での講演になりますが、是非足を伸ばしていただければありがたいと存じます。

そして、7月の第二週16日になるとと思いますが、勁草塾の理事でもあります柳澤協二さん、小泉政権の内閣官房副長官補をしておられましたが、7月の神奈川の塾の講師としてお願いしています。一昨日のNHKでも「集団的自衛権とは」ということで、元防衛官僚でありつつ否定側の論陣としてがんばっていた柳澤さんが来られる予定です。

今後の一般社団法人「勁草塾」、元の方はどうなっていくんだという問題では、皆様方にご支援と御協力をいただきながら、中身のあつち勁草塾にしていきたくと努力をしていきます。

それでは佐藤先生はいかがでしょう。拍手をもってお迎え下さい。

佐藤先生は、私の在職中に、多方面にわたりあらゆるアドバイスをいただき、官邸にいたときにも「すぐこれをやった方が良い」「すぐこれを考えた方が良い」という事も多くあり、私自身は感謝という言葉以外のものは佐藤先生には思いつきません。「知の巨人」ということが当てはまる、日本の中では筆頭であると思うところです。期待に胸をふくらませているところです。どうぞよろしく願いいたします。

【佐藤優】 ただいまご紹介にあずかりました佐藤優と申します。齋藤先生から「先生」と言われてギクッとしたのですが、皆さんの中には経験があまりないかもしれませんが、東京拘置所にぶち込まれるとですね、「先生」というのは看守のことなんですね。ですから「先生」を聞くと、「おっまたあの世界に帰ったか」と一瞬思ったんです。私も去年の6月30日で、犯罪者用語で「弁当」って言うんですが執行猶予期間が終わりました。無事に刑の言い渡しの効力が失われたという事になるんです。そうすると外務省時代に何があったのかという事と、過去3年ぐらいで北方領土交渉って結構動いていることについてまとめたくなくて、今年の1月徳間書店から「元外務省主任分析官 佐田勇の告白 小説北方領土交渉」という本を出しまして、通常こんな本は三千部ぐらいしか売れないんですが、なんと一万八千も売れてまだ進行中なんです。全部作り話なんです。…という事になっているんです。ただその中に出てくるのは、例えば

元北海道沖縄開発庁長官でロシア関係一所懸命やって特捜に逮捕される“都築峰男”がいたり、いろいろ出てくるんです、あと今の内閣は“矢部内閣”になっているんですけど、その中で、前内閣“乃村”政権となっているんですが、その時の官房副長官で、“加藤

豪（つよし）”という人が出てくるんです。それでこの人がいろいろな局面で北方領土に関して重要な役割を果たしていると、要するに加藤官房副長官というの、人生のいろいろな局面を生きてきて、裏表を見抜く力が非常にあると。外務官僚がウソをついて、ロスカボスの日露首脳会談で再活性化などという大嘘をついて、ロシアも日本も言っていない様なことを成果として偽装したときを暴いていく様子とか、かなり詳しく書いてありますので、ここだけの話なんです。齋藤勁先生がモデルなんですけれど、齋藤先生が北方領土交渉でやられていたことというのは、この本を読んでいただければかなりのところがわかると思います。

ですから野田政権は続かなくても良かったのですが、民主党政権はきちんと続いて齋藤先生がしかるべき立場のところになれば、今の国際情勢の中で日本はきちんとした地位を占めることが出来る。ただし、齋藤先生はあまりおっしゃらないのですが、横田めぐみさんのお父さんお母さんが、今回モンゴルでお孫さんとひ孫と会見したと、この道筋っていうのも実は齋藤先生がつけたのですよね。モンゴルと日本の関係を強化して北朝鮮問題で出来るという流れは、実は齋藤先生がつくった。あと、北方領土交渉を巡り安倍政権とロシアのプーチン政権は必ずしも悪くない。この辺の仕込み、そもそも森喜朗先生がモスクワに行くという話は、齋藤先生がやられた話ですから。こういう良いところが自民党政権の側に出ているのが現状なんです。

さて今日は「激動する世界と日本」というタイトルで、1時間15分ほどでお話ししたいと思うんですけど、ウクライナ情勢についてわからないと現在の国際情勢がわからないんです。日本の新聞報道

は初動は比較的バランスがとれて良かった。ところがだんだんおかしくなっています。それはどうしてかというアメリカの国務省が大量の情報を流して、その情報の水準というのはハッキリ言って中学生の夏休みの宿題ぐらいのレベルなんです。我々専門家から見たら箸にも棒にもかからない。ところが大量に伝達してくることで、アメリカスタンダードが主流になっているわけです。これは大変よろしくないです。まず結論から申し上げますと、ロシアのやっていることはおかしい。ただそれと同じぐらいウクライナの新政権はおかしい。毒蛇と毒サソリが戦いあっている様なものなんです。こういう時にロシアのやり方を非難するのは当然ですが、それ故にウクライナの新政権を批判する必要はさらさらございません。この辺を突き放して見られるかどうかですね。

それから、最近新聞に「新冷戦」という言葉が新聞に踊っていますが、言葉は正確に使わなければいけません。これは新冷戦ではありません。冷戦というのは二つの条件があり一つはイデオロギー対立があること。もう一つはブロック間対立があることです。共産主義対資本主義の対立、それからソ連を中心とする東欧・最初の時期は中国も入っていましたが、モンゴル、さらにベトナム、カンボジア、ラオス、そしてアメリカではキューバも加えての体制間対立だったんです。ところが今のロシアは資本主義国家です。政治主導部も国民の選挙によって選ばれているという意味では、これは民主的です。もちろん、その民主主義の基準が若干日本とは違うわけですね。たとえば「プッシーライオット」という女の子のバンドが、「どうぞ、神様プーチンを追い払って下さい」と教会の中でゲリラ・ライブをやることは出来るわけです。そこは表現の自由があるわけです。しかし、やったことには責任があるという事で秘密警察に捕まり監

獄行きになるという事で、やった後がちょっと違うんですね。でも、安倍政権が煮詰まってくると日本でもだんだん似た様なことになっていくと思うんですけどね。日本もだんだんロシアに近づいていくのではないかと考えています。

ただ中国は習近平さんにしても王毅(?)さんにしても、国民の選挙による洗礼はまったく受けていないですよ。その意味において民主主義的な手続きを経ないで自分たちの指導部が存在しているという事なんです。ですからロシアとは根本的に違います。韓国も民主的な手続きを受けて政治的な指導部が選ばれています。その意味において、韓国もロシアも日本もアメリカもEUも基本的な価値観は共有しています。ですから冷戦の基本であるイデオロギー対立ではないです。それから今回はロシアだけが孤立しているわけで、ロシアに同盟しているブロックなんて無いわけです。ロシアとの関係が良いベラルーシですら、この問題に関して立場を表明していません。ですからこれは何かというと、冷戦ではなくて帝国主義的あるいは新帝国主義的な国家間対立なわけです。歴史って反復するんです。ロシアがやっていることは国連憲章に違反していますからね。国連憲章というのは軍隊を使って領土を拡大しないというのがポイントです。ロシアは明らかに軍事力を用いてクリミアを編入しました。しかし、それには後から話しますがのっぴきならない事情があるんです。結論から言うと国連憲章に違反することをやっている。国連憲章どころか国際連盟の原則にも反する。すなわち国際社会は、私が見るところ1914年、今からちょうど100年前の第一次世界大戦前の状況に非常によく似ています。そうするとハンドリングを間違えると日中戦争が起きますよ。尖閣で。この危険性は十二分にあります。

さて、ウクライナの今回の事態をどういうふうに見るか、鍵を握るキーワードがいくつかあるんですが、そのうちの一つが「ガリツィア」という言葉です。「ガリツィア」新聞では時々しか出てきません。今皆さんの中でタブレットかスマホを持っている方がいらっしゃったら「ウクライナ スポボダ」って入れてみて下さい。それで画像のところをクリックしてみてください。

なんかこんな風にやっている人達たくさん出てきませんか。黄色い旗の上にハーケンクロイツの様なカギ十字の旗。これは ガリツィア に基盤を置く今度のウクライナの連立政権の与党の自由党です。国際基準ではネオナチです。今月の岩波書店の「世界」に西谷公明さんという元ロシアトヨタの社長、その前はウクライナに5年ほど専門調査員としていたんですね。その前は長銀の会長秘書をしていたんです。ウクライナ政府に通貨の発行の仕方がわからないのでアドバイスをしてくれと頼まれて、彼がつくったらハイパーインフレになってしまってウクライナ経済は大混乱したと。そういう人なんです。「通貨誕生」という本を書いています。西谷公明さんのお兄さんは有名な平和学の専門家で、東京外国語大学教授の西谷修さんです。彼が今月の「世界」に ウクライナの新政権側がヤヌコヴィッチ政権の警官とかを大分打って殺したりしてたと書いています。それ当然なんです。このガリツィア地方から出てきたウクライナ民族至上主義者というのは、ものすごく危険な人達です。

じゃなんでこんな事になったのか、少し歴史を遡らなければならぬんです。ガリツィア地方というのはですね1945年にソ連の赤軍が入ってくるまで、ロシア領もしくはソ連領になったことは一度もありません。歴史的にはハプスブルグ帝国、オーストリア、ハン

ガリー帝国の版図でした。その後はポーランドの領土になりました。この地域のウクライナ人はウクライナ語をしゃべるんです。それ以外の地域のウクライナ人は20年前まではウクライナ語をほとんどしゃべれなかった。今はウクライナ語教育が行われていますから、キエフとか中心部でウクライナ語をしゃべる。ところがハリコフとかドネツクこの辺だと7割がロシア語をしゃべってウクライナ語がわからない。クリミアですともう少し比率が高くなって、8割以上が日常的にロシア語をしゃべる。なんでこういうふうになるのか、ウクライナ人は元々ウクライナ語をしゃべってますよ。ところが19世紀にロシア帝国がウクライナ語の使用を禁止するんです。そして学校での教育、新聞・雑誌・書籍は全部ロシア語で出さないといけない。ウクライナ語を使っちゃいけないという事にして100年以上の期間が経ったわけですね。それですからロシア帝国の内部のウクライナではみんなウクライナ語を忘れてしまったんです。ウクライナ語は話し言葉として農村だけで使われるという状態になっていました。これに対してハプスブルグのウクライナでは、ハプスブルグ帝国というのは多言語政策をとったんです。宮廷はドイツ語を使いますけれども、ハンガリー語・チェコ語・ポーランド語・スロバキア語、こういう言葉も公用語として認められたんですね。その公用語の一つにウクライナ語があった。ですから「リボフ」ライオンの街って言う意味ですが、このリボフではウクライナ語で教育が行われ、ウクライナ語の新聞・雑誌・本が出ていたわけです。ですから西ウクライナの人達は日常的にウクライナ語を使います。

さらに、ウクライナは基本的に正教なんです。横浜にも正教の教会がありますけれども、ロシア正教の特徴はイコンという聖画像を香を焚きながら拝む、雰囲気としては何となく真言密教の様な雰囲気

気がするわけです。それからカトリック教会の神父さんは独身制です。なんで独身かということと権力があるから。権力があるとどうしても独身制になるかということと中国の宦官の制度を考えていただくとよく解ります。宦官は性器を切るか睾丸を抜くかして子供が出来ないようにする、そうすると自分の持っている権力を子供に継承することはないわけですね。一代限りになるわけです。カトリック教会の神父さんの独身制というのは「社会的な去勢」です。すなわち、実際はともかくとして公には独身なので子供に権力を継承することが出来ないんですね。日本のお坊さんは昔独身だった。ところが江戸時代あたりからみんな生臭になって結婚する様になった、ていうのが表面的な見方なんです。権力が無くなったから結婚しても心配ないわけです。権力があるんだったら独身制にしなければいけないんです。ちなみに、縁故採用とかエコヒイキのことを英語でネポティズムと言いますがネポと言うのはラテン語で甥という意味です。という事はこれ教会から出ている言葉なんです。子供がいないから自分の権力を継承させるときには甥っ子に継承させるんです。だからネポティズムというわけです。プロテスタント教会は妻帯を認めています。カトリックは独身制です。じゃあ正教会はどうなっているか。キャリア組とノンキャリア組に分けるんです。キャリア組は独身なんです。それに対して町や村の教会で神父をやっている下級聖職者達は妻帯できるんです。それでノンキャリア組の一番上とキャリア組の一番下の階級が同じなんです。霞ヶ関のキャリア制とだいたい同じ作りになっています。16世紀の話です。マルチン・ルターは宗教改革をはじめ、ツ빙グリ、カルバンという人達がそれに続く、プロテスタンティズムがわーっと中部ヨーロッパに広がるんです。ポーランド、チェコ、ハンガリーは一旦プロテスタントになるんです。それに対してカトリックが、全面的な攻勢をかけなければいけ

ないという事で、トリエントの会議でつくったのがイエズス会というローマ法王、ローマ教皇に直結する軍隊なんです。イエズス会は修道会ですが同時に軍隊です。強いこれが。それで、ポーランド、チェコ、ハンガリーからプロテスタントを全部駆逐した後、エネルギーが余っているからウクライナまで入ってきたんです。ウクライナのキリスト教徒達は自分たちの生活習慣変えるのは嫌だ、イコンを拜むのに慣れている人、また神父達は結婚しているから家族を捨ててカトリックに改宗するのは嫌だと言ったんですよ。そしたら、イエズス会はおもしろいことを考えるんですね。イコンを拜むのはかまわないですよ、下級の聖職者は妻帯していてもまったく問題ないですよ。ただローマ法王が一番偉いんだという事だけ認めて下さい。ローマ法王が一番偉いんだという事だけ認めればあとは今まで通りでいいんです。おっそれだけでイイのかっていう事で改宗するんです。ちなみにこの教会のことをユニエイト教会と言います。直訳すると統一教会になります。日本語の統一教会は独特のニュアンスがありますから、東方典礼カトリック教会と訳しています。ロシア語でイエズス会を引くと、ペテン師とかクズ野郎という訳も出ています。皆さんの中でドストエフスキーの「カラマーゾフの兄弟」を読んだ方、あそこの大審問官の議論をしている、異端者を火あぶりにしているこの大審問官、「人間は自由に耐えられない」「パンがたくさんあっても一人が独り占めして残りの奴に分けない」だから国家権力が入ってきて大審問官なんかがパンを分けてやるんだと、次男のイワンがそういう説明をしたら、三男のアリョーシャが怒って「それはイエズス会士」だと、なんかこの訳はピタッと来ない、これはペテン師だという意味なんですね。これはユニエイト教会から来ているんです。だって見た目は正教と一緒にじゃないですか。しかし実際はカトリック教会でバチカンとくっついていると。こういう形で

ロシアの正教会をひっくり返してくる陰險なやり方をロシアは見ているわけなんです。未だバチカンとプーチン大統領の関係がうまくいかない、この前、プーチンがバチカンに行ったときに40分遅刻しましたよね。ローマ教皇との会見で、あれわざとやっているわけです。その根っこにあるのは、このユニエイト教会の問題なんです。

さて、第二次世界大戦の時なんです。ナチスドイツの側にウクライナ軍団というのがあったんです。何人ぐらいいたと思いますか。30万人です。今の自衛隊より大きいんです。それがナチスの側に参加した。そしてユダヤ人殺しポーランド人殺し、スロバキア人チェコ人殺しとかさんざんやっているんです。その末裔が先ほどお話しした「スポボダ」、ナチス式にここで手を挙げている連中です。これが今連立に入っているんです。このスポボダの指導者でステパン・バンデラという人がいました。ウクライナ独立運動の指導者としてよく写真が出ています。デモの時に出ています。最初、ヒトラーらと手を組んでウクライナ独立を計画する、ソ連と戦ったわけですね。ところがナチスの特徴というのは、約束はするけど約束を守るとは約束していないという形でいつもいろんな外交をやっていくわけですね。となると、ウクライナをソビエト側から解放したあと、独立じゃなくて、ウクライナ人は「東の労働者」という名前でどンドン人狩りをして強制連行をして、それでドイツの工場や炭鉱で働かせるわけです。約束が違うじゃないかとステパン・バンデラが言うと収容所に入れられてしまうんです。ところがバンデラの配下の軍団はナチスドイツの下に入ってソ連軍とずっと戦闘を展開しました。ちなみに、ソ連赤軍の側に加わったウクライナ人は、200万人です。30万対200万人のウクライナ人があの戦争では同族殺しをしたわけですね。これが実態でした。1945年にソ連赤軍がガリツィア地方を占

領します。そしてナチスドイツのバンデラ軍団に加わった幹部はその場で射殺、軍団の下っ端の方は極東・サハリンこういったところに移住、あるいはウクライナ東部に移住、中堅くらいの連中はシベリアの強制収容所に入れました。それと同時に1946年に秘密警察の強い圧力で、先ほどのユニエイト教会がロシア正教会と合同するんです。実際は併合です。ユニエイトに所属している人間を片っ端から捕まえて強制収容所へ送りました。強制労働で短くて7年、長いと25年ですね。

ウクライナは西の方へ行けば行くほど貧しくなるんですね、こういうナチスドイツ協力者やカトリック教徒が多い山岳地帯ですから、インフラ整備をしないんです。同時にこのガリツィア地方のウクライナ人は、山の中にこもって反ソビエト武装闘争を展開するんです。10年以上やるんですよ。あのソ連の赤軍と秘密警察が皆殺し作戦を展開したんですけど10年以上反ソ闘争が続くんです。それを外から支持していた、東西冷戦はじまりましたからね、ステパン・バンデラはアメリカ軍によって解放されたあと西ドイツに亡命するんです。西ドイツとウクライナ解放運動をつくってソ連人、ソ連要人の暗殺、ロシア人殺しっていうことを支持してやっていたんですね。それですからソ連の秘密警察、KGBの前身がミュンヘンに刺客を送るんです。1959年にステパン・バンデラを暗殺するんです。その暗殺した奴がその後アメリカに亡命したんで、このバンデラとKGBの関係というのが表に出たんです。バンデラの死と共に、指導者失いましたからウクライナの反ソ武装闘争というのはなくなるわけです。ところが、こんなソビエトの下には我々は生活したくないと、こういうふう考えたウクライナ人達は亡命するんです。ナチスに協力してたような人達ですからねなかなか亡命先が見つからない、当時

亡命を受け入れてくれたのは、主に二つの国、ブラジルとカナダです。ブラジルに亡命したウクライナ人達はポルトガル語ブラジル語をしゃべる様になって社会に同化していった。カナダはすごくやせた土地、エドモントンを入植地として与えた。エドモントンは冬はマイナス40何度になりますからね、そこでウクライナ人達は助け合って生活をして、いまウクライナ人というのはカナダで三番目に多い民族なんです。カナダでもっとも話されているのが英語、その次がフランス語、三番目がウクライナ語です。今120万人ウクライナ人が居ます。ちなみにロシアのウクライナ人は210万人ぐらい、アメリカのウクライナ人は90万です。アメリカのウクライナ人はウクライナ語を忘れてアメリカ語、ロシアのウクライナ人はほとんどロシア語をしゃべります。ウクライナ語が出来なくなっています。このカナダのウクライナ人というのがウクライナの民族運動の核になるんです。

みなさん、北アイルランドで以前激しい武装闘争が展開されましたよね。IRA（アイルランド共和国軍）によって。あれ南アイルランド（アイルランド共和国）が支持しているわけではないんですよ。北アメリカ、特にニューヨークにいるアイルランド系の移民の子孫で、経済的に成功した人達が、今まで一度も帰ったことがない故郷のアイルランド、そのアイルランドのために何かしたいと思って過激な民族主義運動、テロ活動をしている人達を資金的・政治的に支援したんですね。こういうのを民俗学では「遠隔地ナショナリズム」といいます。自分が住んだことがない心の中の思い浮かべる故郷だから、その良いところばかり見えるわけですね。ソビエト政権は西ウクライナに外国人が入ることを厳しく禁止しました。ゴルバチョフが登場してペレストロイカを進めた。1980年代の終わりになって

西ウクライナにも外国人が入れる様になったんです。カナダからたくさんウクライナ人が行きます。当時ソ連経済は混乱していましたから、高校の先生の一ヶ月の賃金が500円です。カナダの標準的な労働者でも一ヶ月に25万円はとっています。そうすると、故郷に帰って民族のために一所懸命やっている人達が居るって事で、3万円なり5万円なりを寄付すると、それによって政治活動に二年ぐらい専心できるわけですね。みんな。一切働かないで。その金で武器も調達するわけです。ソ連が崩壊する過程でこの西ウクライナの人達が、反ソビエト独立運動の中心になるわけです。

今回のウクライナの政変というのは、この西ウクライナの勢力が権力を握ったという事です。ヤヌコビッチという前の大統領が腐敗していたのは間違いありません。ところがユシェンコという大統領もすごい腐敗していました。それから「美しすぎる首相」で話題になったティモシェンコ、今は反ロシアという姿勢を表明していますよね、あんまり国民の気がない、どうしてか、彼女もものすごく腐敗しているから。不正蓄財しているから。他の大統領や閣僚達が不正蓄財していても捕まらないで、彼女だけが捕まったというのは、ヤヌコビッチ政権にいらまれたからです。その意味では不当弾圧ですが、彼女自身が多額の不正蓄財をしていたというのは紛れもない事実なんです。だからウクライナ国民の間で気がないんですね。二十年ソ連の崩壊から経ってもウクライナの政治指導部は外国からの支援を得て、その支援を着服して不正蓄財を行う。そこで腐敗をいやがった民衆達に見放されて、ふたたびクリーンな政治を掲げて政治家が出てくるけれども、それがまた腐敗すると。その繰り返しなんです。構造問題です。ウクライナに金を入れることはどぶにカネを捨てるのと一緒・・・とまでは言わない。どうしてかというオオ

カミがあんまり腹を空かせると何やるかわからないですからね。周りを嘔むとか。最低限必要な餌だけは与えなければならない。その程度の付き合いで済ませなければいけないくらいの大変構造的に腐敗した政権なんです。

それに対してウクライナの東部・南部の人達は、自分がウクライナ人なのかロシア人なのか、自分自身でよくわかりません。日常的にはロシア語をしゃべっています。そして信じている宗教は正教、今回ドネツクあるいはハリコフで行政が占拠される。それをウクライナの治安部隊が解除して死者が発生していると。ウクライナ政府はロシアの秘密警察による工作だと、アメリカもそうだと断言していますが、私はそういう見方をしていない。ウクライナの今回の新政権が出来て翌日ぐらいから激しい抵抗運動やデモが起きましたよね。ロシアにそんなことを仕掛ける組織力はないです。なぜ起きたか、簡単なことなんです。ウクライナ語のみを唯一の公用語としたから。公用語をウクライナ語だけにするのになんでみんなそんなに暴れるの？ 公務員はウクライナ語をしゃべれないと首になるという事です。東ウクライナ・南ウクライナの公務員はウクライナ語をほとんど出来ません。そうすると全員クビです。じゃ民間に行けばいいじゃないかと、公文書がウクライナ語、役所の許認可があるわけですよ。企業の幹部職も管理職もウクライナ語が出来ないとクビです。そのクビになった後に皆さんもTVでご覧になっていた火焰瓶を投げていたあの広場にいた連中がやってくるわけですよ。それが幹部職になるわけです。もともと東ウクライナ南ウクライナに住んでいるロシア語しかしゃべれない人達は言葉が必要でない労働にしか就けない。肉体労働や商店での簡単なウクライナ語のやりとりだけで出来る仕事、あるいは農業、それにしか就けなく

なるっていう事ですよ。そうすると東ウクライナ南ウクライナで普通に暮らしている人達からするとなんでそんな目にあわされなければならぬんだと。こういうふう思うわけですよ。自分たちの米びつ（生活）がかかっているから抵抗するわけです。わかりやすい話なんです。

さて、クリミアをどうしてロシアはなぜ編入したのか。クリミアとウクライナはほとんど関係ないんです。これは、まったく別の話なんです。少し長くなりますが、クリミアに元々あったのは「クリミア汗国（カンコク）」汗の国と書きますが、イスラム教徒の国家です。これはジンギスカンの末裔なんです。ジンギスカンがずーっとハンガリーのあたりまで攻めて行って、クリミアもその影響下に入るんです。そしてクリミア汗国という大きな国家をつくった。その北にあるのはウクライナですよ、当時ウクライナ人・ロシア人・ベラルーシ人の民族意識と未分化でした。広義のロシア人、大ロシア人というのが今のロシア人。小ロシア人というのが今のウクライナ人、白ロシア人というのが今のベラルーシ人です。お互いに同じロシア人とだいたい思っていました。「クリミアタタール人」というのがクリミアの先住民族です。クリミアってすごく土地がやせているんです。水がすごく不足しているんです。農業に適さないんです。じゃあクリミアタタール人達は何をやったのか、ウクライナは穀倉地帯ですよ、農民が働いている、そこで出来た穀物を略奪してくるんです。それから家畜も略奪してくるんです。それだけじゃない、女性を略奪して奴隷としてペルシャ今のイランそれからアラビア半島に売り払うんです。人身売買をやって国家運営をしていたんですよ。当時ってそういった国家って珍しくないんですよ。そうしたらウクライナはどうなったか、まともに仕事をしていても略奪され娘や

奥さんを拉致される様なそんなところに住んでいる意味ないでしょ。みんな逃げちゃったんです。それでウクライナはペンペン草が生える様な状態になっちゃった。キエフの街もほぼ廃墟のようになっちゃったんです。そういう状況のところで、ロシアから犯罪を犯した者、逃亡農民、ワケありの人達が武装してウクライナに入植してくるんです。税金も払わない、これが「コサック」なんです。独自の掟を持った。コサックって苗字においてすぐわかるんですね、「名前とは言えない」とか「もうビールは飲まない」とか。「ビールを飲まないイワン」だとかになっているんですね。この武装集団が、ポーランドとポーランドのカトリック教徒とクリミアのイスラム教徒達と闘ったわけです。ならず者集団であってもクリミアは組織されているから強い。そこで1654年、この年号は重要になります。1654年にコサックの親方がモスクワ皇国、当時のモスクワの王様と親子の契りをするんです。杯を交わすわけです。これが「ペレヤスラフ協定」です。背後にロシアの支援がある、それを使ってクリミアをコサック達が征服し、その後ロシアの正規軍が入ってきてクリミアを占領するわけです。その後クリミアはトルコとも戦争になり大変な戦場になるんです。最終的にはロシアが相当の血を流して取った土地なんです。

時代下がります、第二次世界大戦中ナチスドイツがクリミアに上陸しました。そしてクリミアタタール人達に、誘いかけるわけです「ロシア人達にひどい目にあわされただろう？ 元々クリミアはクリミアタタール人のものなんだ、おまえ達を独立させてやる」と。だからナチスの側に入って手伝えと。当然、ソ連に対して恨み骨髄ロシア嫌いですからね、クリミアタタール人の一部がそれに協力しました。そして今度1944年、ソ連赤軍がクリミアを解放するわけです。その時、スターリンはクリミア人がナチスドイツと協力した

ことは許せないという事で、「対ナチスドイツ協力民族」というレッテルを貼るんです。そんな、民族の一部が協力しただけで、民族全員が敵だというレッテルをスターリンが貼ってですね、十数万人のクリミアタタール人を貨車に乗せて、中央アジアに強制追放するんです。ウズベキスタンに。水も食料も十分に与えません。だから移動の中で赤ん坊とか妊婦とか死んじゃうんですよね。数千人が死んだ。途中で埋葬することも許されないで野ざらしにされて。こういう事だったんです。そして、クリミアに潜んでいたクリミアタタール人は見つけ次第殺しました。文字通り皆殺しにしたんです。その後をロシア人が入植してきたのですね。あれ佐藤さん、なんでロシア人なの、その時点ではクリミアはロシア領なんです。

さて、戦争が終わった後、ロシアはソビエト政府がウクライナ政策を変えます。なんでウクライナ人があんなにナチスの側についてたのか、伏線を見ると反省しなければならないことがいくつもある、まずはウクライナ語の使用を禁止するという形で帝政ロシアと同じような政策をしたと、これは間違いだったと。だからウクライナ語の教育を再開してウクライナ民族の文化を発展させようという方向になるわけです。それと同時に、ウクライナでの農業集団化の時に、これ大変なことだったんですよ。ウクライナ人達は元々自作農なんです、それを無理矢理共用化したために、あれだけの穀倉地帯であるにもかかわらず、内戦の影響もあって400万人が餓死しているんです。ちょうど私がモスクワにいるときですかね、歴史を見直す「灯火（アガニョーク）」と言う雑誌に衝撃的な写真が掲載されました。人間の肉が吊されて販売されているんです。食べるものが無くなったんで人肉を販売していたんですね。ウクライナの飢餓の中で。こういう思いをさせられたのは旧ソ連の中でもウクライナぐらいの

ものです。ですから戦争・内戦の犠牲になったウクライナを優遇しなければいけない。これが、第二次世界大戦後のソビエトの政策の一つになりました。1953年にスターリンが死んで、1954年、当時ソ連の権力を握っていたフルシチョフソ連共産党第一書記が、「ペレヤスラフ協定」300年を記念してクリミア半島をロシアからウクライナに移管します。当時はソ連が壊れるなんて誰も思っていないですからね。ロシアからウクライナに移管してもたいした違いはない、じゃ佐藤さん、なんで移管する意味があるの、そんなことでウクライナよろこぶの？ それがよろこぶんです。これはロシアに長いこと住まないとわからないのですが、ちょっとあまり品の良い話ではないんですが、人間には性欲があります。ソビエト政権というのは、表面上はものすごく性に対して厳格で、堅苦しいイメージだったわけです。ところは実態は二重基準で、ソビエト人というのはロシア人もウクライナ人もソビエト政権になって一つだけ達成されたのは労働時間の短縮です。これは社会主義の理想が達成できました。二ヶ月休みを取ります。夫婦共働きです、夫婦まとめて二ヶ月休みを取ったら産業が麻痺する、だから6月から10月に分けて二ヶ月休みを取るんです。ロシアでは「川を三つ越えたら秘密はない」とか言うんですね。だから何やってもイイって感じなんです。それですからたっぷりと夫婦で別の時季に休みを取って、夏だけのパートナーを見つけて充電してくるんです。これは、ロシアで今でも日常的に伝統がありますよね。ですからなんか無礼講のセックス場みたいのがあるんですよ。ちなみにロシアでは、私ぐらいの感じならばまだ太っている方に入らないですね。太っているというのは120キロを超えた人です。どうしてかというロシアのヘルスメーターは120キロまで計れるんです。120キロを超えたらどうすると思います？ ヘルスメーター二つ買ってきて片足ずつ乗せて合算すると体重になる

んです。ですからロシアの女性も男性も20代の時は食べることに気をつけていますからね、そんな太らないのですが、30代で体重三桁に突入する人って多いわけですよ。オリンピックのソチとかヤルタってそういった保養所がたくさんあるんです。そういうところへ行くと、ビキニのスリーサイズ120cm級の女性が一回り小柄な130キロぐらいの男性に声をかけているわけですよ。それで二人でリゾートホテルに行くわけです。ロシアのホテルのベッドは華奢なシングルベッドなんです。その上で合算250キロの二人が乗っかって激しい運動をしているわけですから、よく抜けるんです、ベッドが。だからロシアのホテルには大工さんがいて、抜けたベッドを毎日あの部屋この部屋で直して歩いているわけですね。こういう環境だったんです。そのすばらしいリゾート地がクリミアにたくさんあるわけですよ。ウクライナに移管するわけでしょ？ ウクライナの共産党とか労働組合の幹部はみんなそこ使えるわけですよ。フルシチョフはイイ奴だって話しになるわけですよ。それでこのクリミアのウクライナ移管というのはソ連国内にも大きな意味があったのです。

1956年ソ連共産党第20回大会が行われます。フルシチョフが秘密抗告を行ってスターリン批判をする、その時、フルシチョフはチェチェン人、カルムイク人達をナチスドイツに協力した対敵協力民族というレッテルを貼ったことが間違いだったと謝る、取り消すと、それと同時にチェチェン人達が祖国に帰ってもとの土地を取り戻すことを認めると、現地の共産党当局も協力しろという事になり現実その通りになるんです。ところがそのリストの中にクリミアタタール人がないんですよ。どうして、先ほど言った様にウクライナ対策という事でクリミアを移動したという事は、すごくフルシチョフの時に重要だったんですね。クリミアタタール人が戻ったら？ ク

リミアタタール人が元々住んでいたところは、いまリゾートホテルになっているわけですよ。これ全部クリミアタタール人に返還しろという事になったら、めんどくさい、ウクライナ人も機嫌悪くすると。じゃあ、クリミアタタール人の強制追放はなかったことにする。こういうふうにしちゃったんです。それで、旧ソ連時代の最大のタブーの一つというのが、クリミアタタール人の強制追放だったんですね。クリミアタタール人の強制追放があったと認めたのはゴルバチョフです。そして帰還も認めました。1980年代の終わりです。そしたら何が起きたと思います？ クリミアタタール人が土地を返せと言い出したんです。ウクライナ人とロシア人は返さないと言った。ウクライナ人ロシア人のスラブ連合対クリミアタタール人の間で、武力衝突を含む衝突が起きるんです。ですからクリミアにおいてはクリミアタタール人という共通の敵がいるから、ロシア人とウクライナ人仲が良いんです。こういう特別な地域なんです。ちなみにクリミアタタール人はイスラム教徒ですから、産児制限をしません。いま約25万人ぐらいいるんだけど増える傾向にあります。職も充分にない。就職が出来ないクリミアタタール人の青年はアルカイダに接近しています。今回キエフの政権が権力を握った、それで先ほどのスボボダみたいなのが権力をとっていると、かつてクリミアはナチスに占領されたことがあるわけですよ、あのときロシア人は殺されてひどい目にあっていて、キエフのこの勢力がクリミアにやってくるという事でみんなパニックになったわけですよ。それでロシアに助けてくれと言ったわけですね。あそこで普通に住民投票をすれば、ロシア編入というのは普通に出てきます。ところが、キエフの政権の性格を考えた場合に、住民投票が起きることはわかっていますから、事前に行政府の幹部の首をすげ替えてキエフからウクライナ民族至上主義者が送り込まれるのが確実でした。そういう状況がある

中でクリミアのロシア系とウクライナ系の大部分の人達は助けを求めてきた。ロシアとしてはこれは放置できない、それと共にクリミアにはロシア黒海艦隊がありますからね。そのセバストポリの軍港を守らなければならないというかたちで、あの国籍不明軍を送り込んだわけです。こういうカラクリなんです。

じゃ今後ロシアはどう出るか、クリミアに関しては誰がどう言おうと今の状況は変えないです。編入したままです。プーチンがそこに踏み切ったのは三つの理由があります。一番目は本当にクリミアの住人の大多数がロシアへの編入を望んでいるから、これ間違いないです。ちなみにプーチンは電話でクリミアタタール人の代表者と話をしていますね、クリミアタタール人の半分ぐらいもロシアへの編入を支持しているという実態です。ですから、クリミアの人達の民意に反してロシアが併合したわけではないんです。そこにおいて正当性があるとプーチンは信じています。二番目、ウクライナのキエフ政権にはクルミアを奪還するだけの軍事力がないという冷静な計算。三番目、アメリカも現状においてクリミアに手出しをする余裕はない。アメリカの介入は口先だけだと。こういう事なんです。でもアメリカからするとシリア問題に続いて大恥かかされたわけですね。もはや、アメリカは超大国でアメリカがつくったルールが世界に通用するわけではないと。アメリカは何を言っても負け犬の遠吠えに過ぎないという事をプーチンは可視化したわけです。アメリカはアタマに来ちゃっているわけですよ。それでアメリカ自身が、ちょっと常軌を逸して今「恐口病」ロシアを恐れる病にかかっています。例えば今、最新のフォーリン・アフェアーズ・リポート、これアメリカで出ている外交評議会、ジョージ・ケナンがつくった団体ですが、ここの日本語版、これにアメリカのラドガース大学の教

授のモティルという人がウクライナ情勢の論文を書いています。この人は国務省とか軍の政策にも影響を与えるアメリカのウクライナやロシア問題の第一人者ですよ。読んで呆れましたね。まず、プーチンが攻めてくるのは確実だと。ウクライナに対しても攻めてソ連を復活しようと思っている。まあ、それくらいだったら事情をよくわからない人はそういうことを言うだろうなと思ったんですが、それどころじゃない。プーチンの野望はポルトガル占領だって言うんですよ。そしてウラジオからリスボンまでの巨大帝国にロシアを拡大することだと。ヨーロッパ全域をロシアの範都にするという野望を抱いている。こういうふうに分かっているんですね。アメリカ人にはそういうふうに見えるんでしょう。だからなんとしてもこのプーチンの野望を力によって防ぐんだと。こういう主張をしているんです。ロシアは東ウクライナ・南ウクライナには出ていくことが出来ません。どうしてか。先ほども申し上げた、あの辺の人達というのは自分がロシア人であるかウクライナ人であるか未分化なんです。もしロシア軍が出ていった場合、ウクライナの中央政府はそれを阻止するために武器を持って闘います。また、現地にいるウクライナ政府を支持する、約2割ぐらいだと思いますが、そういう人達も武器を取ってロシアに抵抗するでしょう。ロシア軍とウクライナ正規軍の力を比べた場合、これは大人と子供の戦いです。ボーイスカウト対正規軍の戦いです。あっという間にウクライナ軍は全滅です。その、目の前でウクライナ人が殺される姿を見たときに、ウクライナ人かロシア人かの自らの民族意識を決めていない人達は確実にウクライナ人という民族意識を持つんです。外から来た人が横暴なことをやったときには、自分たちの知っている人達が殺される姿を見ると、今までロシアに対して共感を持っていた人もその次の瞬間に反ロシアに変わるんです。そうするとこの反ロシアのウクライナ人

の持っているイメージが、インターネットを通じてロシア国内のウクライナ人に飛び火する、極東でも北方領土でもサハリンでも、特にウクライナ系の多いところでは。ウクライナ語をぜんぜんしゃべれなくても自己意識はウクライナ人と思っている人達が増えてくるわけです。そしてロシア人と軋轢を起こす。ロシア全域においてロシア人とウクライナ人がぶつかっていくというシナリオをロシア政府は望みません。だから軍事介入したくても出来ないんです。

これと似た状況にあるのが、実は沖縄なんですよ。沖縄人は沖縄人であると共に日本人であるという複合アイデンティティ 民族意識を持っています。一昔前まで、沖縄県民・沖縄の人達はって書いたんですけど、今、沖縄の新聞は「沖縄人」というふうを書く事に全然抵抗がないです。それから、琉球人だと。我々は日本民族とは違う、そういうことを主張する学会も出てきています。ただ、今ほとんどの沖縄人達は自分が沖縄人なのか日本人なのか詰めて考えていないですね。ところが辺野古の移設を民意に反して強行する、そうなった場合、東京で産経新聞と読売新聞しか読んでいないとすね、「あそこで反対運動やっているのは外人部隊だ」と、本土から行った新左翼系の過激派だけじゃないかと思えるんですが、実態は沖縄県民が大多数なんです。特に辺野古の移設を強行するという事になれば、80代から90代の沖縄戦を経験したおじいちゃんやおばあちゃんがピケに入るのは確実です。それを沖縄県警に県知事が命令して排除しろと言っても親戚縁者のいる機動隊員は行かないですね。今も普天間周辺の抗議活動の警備には、親戚縁者のいない人達を選んでいます。必然的に本土出身者や離島出身者になります。そのところで流血が起きる、流血が起きたら沖縄の保守層を含め、今の時点では日本人と思っている沖縄人の多くが、われわれは日本人と

違う沖縄人なんだという民族意識を持つ様になるんです。その土壤というのはすでに現れていまして、去年から9月18日が「しまくとぅば（島言葉）の日」という県の行事になって、現在、那覇市の採用試験では二次試験で琉球語の試験があります。それから今年の4月28日、「主権回復の日」 政府は行事をしないんですが、沖縄ではその日をきっかけにして日本との関係をもう一度見直しておこうという動きが出てきます。具体的には、1854年日米修好条約が出来たときに、ペリーが那覇に立ち寄って結んだ琉米修好条約という独自の条約文書があった。この条約文書がなぜ今東京の外交史料館にあるのか、これ、琉球王朝より持ってきたんですけどね、それ以外でも1855年の琉仏修好条約、さらに1859年の琉蘭修好条約、三つの国際条約を締結した琉球王国は国際法の主体なんです。この国際法の主体である琉球王国が1879年の廃藩置県、琉球処分によって日本に併合されたことが、果たして国際法的に合法だったのか、この議論が沖縄で本格的に出てきます。ウクライナとすごく似た状況に実は日本が、それなかなか気づかないんですよ。国際基準で見た場合、いま沖縄を巡って起きている問題は民族問題です。となると、沖縄でもしそのような状況が流動化すると、大阪の大正区でり、兵庫県の尼崎であり、あるいは神奈川県の川崎・鶴見、この辺に沖縄新コミュニティの大きなところにおいても沖縄系日本人の自己意識が沖縄系日本人からニッポン系沖縄人に変化してくるでしょう。今、沖縄の独立運動を中心にやっているのは沖縄県内に住んでいる沖縄の学者じゃないですね滋賀県の龍谷大学の滋賀キャンパスに勤務している松島康勝先生、もともと外務省の専門調査員だった。どちらかというと穏健な立場の人、この人がこの四・五年琉球独立運動の中心になっていますよね。こういう変化が生じ始めているわけなんです。

ウクライナに於ける国際変動ってのは、世界中に於ける民族的な意識の変化をもたらします。沖縄との関係で今注目してみなければいけないことは二つありますね。一つ目、今年11月18日に行われるスコットランドの独立に関する住民投票、これがどういう結果になるか。今のところ4・6で否定されると見ていますが情勢によってどうなるかわからない。スコットランド独立という事が日程に上がってきた場合、次にどこに飛び火するか、ベルギーです。ベルギー北部のフラマン人達の独立運動は今かなり強くなっています。それから次には、スペインのカタロニアです。こういう形で21世紀ももう一回民族の再編が行われるかもしれない。そのうちの、一つの熱い地になり得る可能性があるのが、日本の沖縄なんですね。ここは、なかなか過小評価されているところだと思います。それですから日本の国家統合を維持するという観点から、あの辺野古への移設はやっぱりダメなんです。そもそも辺野古に移すというのは期間限定で民間空港にすると、14・5年で。ところが今行われているというのは、辺野古に恒久的な巨大基地をつくらうとしているんですからね。この問題は非常に深刻であります。

さて、ウクライナに話を戻しましょう。これがまた最終的には沖縄にかかわってくるんですけどね。今の安倍政権はある種の曖昧政策をとっています。これは、ロシアに対して安倍政権がおもねっているというよりも、安倍政権はロシアを孤立させるとロシアは中国に接近する、中国に接近することによって、ロシアは軍隊を使ってクリミアという失地を回復したわけですね。中国にとっての失地は尖閣なんです。中国がロシアと組むことにより中国は尖閣という失地を回復するんじゃないか。それを恐れているわけです。それだからロシアとの関係悪化を防ごうとしているわけです。

実は安倍政権というのは、ツッパった格好はしていますけれども、本当の戦争になるのは相当怖いんですね。しかも、ウクライナ情勢が緊張するとアメリカは、中東とウクライナに張り付きになる。尖閣に中国軍が上がったときに、日米安保の適用範囲だと口ではいくら言ったってアメリカは実際に来るかわからないその不安がある。じゃ自衛隊だけで戦えばいいじゃないかと、そういう状況は極力起こしたくない、ある意味では臆病風に吹かれているわけだけれども、「平和愛好な内閣」だと思いますね。ただ怖いのは「安倍じゃダメだ」と、「やっぱりタモちゃんが出てこなければダメだ」と、田母神将軍にやってもらおうと。田母神将軍は後先考えていないから。こういうふうになる危険性というのがあるわけです。いや実を言うと私は、ロシアと中国が接近するだけでは中国は尖閣に出てこないと見ています。なぜか。尖閣に出てきた場合には中国は経済封鎖されるから。中国はでかすぎて経済封鎖できないという人がいるんですが、これくらいゲームのルールを本格的に変えることになれば、これは、ベトナムにしてもフィリピンにしてもタイにしても、この調子で中国が軍隊使って領土変更してくるんじゃないかということ封鎖しますよ。そしたら中国困る。ただ、私が恐れるシナリオは、この前東京新聞に書きましたが、ロシアが中国に接近すると共にイランに接近することなんです。ロシアがイランに接近するとイランと中国は関係が良いんですねけれども、ほかのサポートがないからイランの石油とガスを充分に買うことが出来なかったわけです。どういうふうになるか、モスクワ、北京、テヘランという枢軸が出来ると中国はエネルギーを経済封鎖になってもイランから石油を買うことが出来ると。それならばなんの躊躇もなく尖閣に入っていることが出来ますね。意外とここでカギを握るのが、イランとロシアがどの程度接近するのかという事なんです。その兆候が出てきているので非常

に危ないと私は思っているわけです。

そうすると今、国際社会の中で起きていることというのは、今までの既成の概念では、どうも捉えられない様なことが、かなり起きているんじゃないかと思うんです。岸田外務大臣が、今月の末にロシアに行くという約束をしているんですが、まだ決めていない、これアメリカからするとアタマに来るわけです。ただ今、日本の外務省の中で綱引きが明らかに起きていますね。こここのところは、アメリカがこれくらいアタマに来ているんだから、日米同盟を重視するという観点から、アメリカとの関係を重視して、岸田外務大臣の訪露は中止すべきだと、こういう考え方。もう一つは、ロシアとの対話のパイプがほとんどの西側諸国との間で切れちゃっている。その状況で、むしろ日本が直接モスクワに乗り込んで行って、ロシアがやっていることに対してアメリカは本当に懸念しているよと、それから、クリミアの様にウクライナの南部や東部を併合すると等という事があると、国際秩序の大変な変動につながり、世界大戦の引き金を引くよと、だからロシアは絶対に併合は行わないという事の確約をしてくれと。こういうふうに言えば、私はロシアは確約を与えたいと思います。また、うまく根を回せば、岸田・プーチン会談も成立すると思います。その場において戦争を防ぐという役割を果たせるかもしれない。それを考えて行くべきだと考えている人と二つに分かれていますね。これでどちらの方向に日本が振れるかによって、北方領土交渉も国際秩序も変わってくると思います。仮に岸田外相がモスクワに行ったというシナリオを考えてみると、北方領土は大いに動く可能性がありますね。どういうことか。ロシアはクリミアの人々の人権を守るため、平和を維持するためにクリミアの編入を民意に則ってやったという立場ですよ。領土拡張の意志はな

いという主張をしているわけです。それを信用させるためにはどこか自分の領土を手放さなければならないわけです。もし北方四島をロシアが日本に返還するならば、ロシアに領土拡張の意図がないという事を国際社会に示すことが出来ますよね。裏返して言うと、氣にくわなくなったらいつでも北方四島で住民投票やって、ロシアに編入すれば良いんですから。一回ぐらい返したって、プラスとマイナスどっちが大きいかな？という帝国主義的な打算によって北方領土交渉が動く可能性があるんです。ただ、これで北方領土交渉が動いたら、アメリカは「日本はなんちゅう国だ！」自分の国の領土問題しか考えないで、ロシアがクリミアを併合し力によってウクライナに影響力を行使しようということを背後からサポートしているじゃないかと。クジラやイルカの問題だけじゃなくて、靖国の問題だけじゃなくて、慰安婦の問題だけじゃなくて、基本的な国際法の感覚が日本は異質であると。こういう様な評価になるでしょう。ここも、ホントは日本異質なんですけどね、なんだか訳がわからないけれども、とんでもないところに日本は巻き込まれていると。それと、安倍さんはオバマさんより明らかにプーチンさんの方が好きですね。あのプーチンさんの強権的な体質というのがきっと好きなのでしょう。「僕も出来ればああいう様なニッポンにしたい」と思っているのでしょうね。ですから日露関係が動くのが日本国民にとって良いことなのか悪いことなのか、最近私わからないんですよ。ただ、それくらい時代状況が変化して国際社会の構造も変化しているっていう事なんですよ。

そうすると、どうすれば今、ウクライナ発の世界戦争を防ぐことが出来て、なおかつ、ウクライナにいる普通の人達の生活を確保することが出来るのか、これは、私はウクライナの連邦化だと思う。

南ウクライナと東ウクライナに関しては、連邦政府をつくって、予算もそこで配分して、言語政策もそこで決めて、それでキエフとの間で連邦条約をつくってきちっと信頼関係を回復するという事だと思ふんですよ。それは今、ロシアがやっている提案なんですけれども、私はこのロシアの提案というのは必ずしも悪いとは思わない。ただ、キエフ当局としてはそうなる東ウクライナ南ウクライナに自分たちの影響力を拡大することは出来なくなりますから、今の西ウクライナ主体の政権としては絶対に受けないでしょうね。アメリカも状況はわからないもののロシアのいう事には全部反対するでしょう。

今、ものすごく微妙な線なんですけれども、ロシアはウクライナの現政権を認めていないんですね。ところが5月25日に行われる大統領選挙には反対していないんですよ。ということはどういう事か、5月25日の大統領選挙を経て出来た政権とはきちんと対話をするという事なんです。ウクライナとロシアの国交が断絶しない様に、ウクライナ・ロシア戦争が起きないように日本は働きかけることが出来ると思ふんですよ。ちなみに、中長期的観点でヨーロッパで、ロシアと構えることが出来るのはイギリスとフランスだけです。なぜか、イギリスは北海油田をノルウェーと共同開発しています。ですから、ロシアのガス石油に依存しないでエネルギーを担保できるんです。ちなみに、この北海油田はスコットランドに所属しているわけです。スコットランドが独立すれば、スコットランド独立党の影響力が伸びている、なぜか、北海油田なんです。北海油田だけでノルウェーって実はほとんど人が働かないで生きて行けますよね。スコットランドも独立した場合同じ状況になるんです。それだからイギリスは全力を挙げてスコットランドの独立を阻止するでしょうね。しかし、今度の住民投票でどうなるかわからないんです。

沖縄に関しても、尖閣のガス田開発が、もし想定されている埋蔵量があり、石油も採れるという事になるならば、沖縄が独立した場合、これはクウェートになる可能性がありますよね。別に日本に依存しないでも良い。基地なんかいらぬ。こういう方向になっていく可能性も十二分にある。スコットランドが独立するという事は沖縄にも影響を与えうる事なんです。

私は、母親が沖縄の出身だという事もあり、沖縄の問題を細かく見ているんですけど、実はこの前まで、今でも憲法はいじらない方が良いという考えは変わらないんですけど、躊躇しているのは、私は改憲論に傾いているんです。その改憲論は憲法9条なんてじゃないんです、日本の国家制度を連邦制にした方が良いと思う。道州制ではなくて、沖縄に関しては、これはもう歴史的な経緯が違って、元々の独立国家で国際法の主体と認められているわけですから。かつて米軍の施政権下でも琉球政府があった。そもそも尖閣問題だって、琉球政府は外交権がない状況の下で日本政府に委任して提起してもらった問題なんです。日本が最初から尖閣問題を懸念していたわけではなく琉球政府が言っていたんです。そうすると逆に日本が連邦制になった場合に、東京と北京で尖閣の帰属に関する問題を議論すればいいです。ところが実際に尖閣の周辺で海上事故を防止するあるいは船溜まりをつくるという漁業権を設定するという事は、沖縄政府と台湾と中国の福建省でもどこでも良い、実際に尖閣を使いたいと思っている当局者の協議で、共同使用を決めれば、日本の立場を毀損しない形であそこの海から戦争が起きることは阻止できますよね。ですから、その意味で日本の国家制度というものも、今までのような単一国家制度で出来るのかどうか、構造的な大きな曲がり角に来ていると思うのです。

北方領土問題にしても、戦争で取られた領土を取り返すという理屈では、国際的な説得力が無くなる。ここでカギになってくるのは、北方領土の先住民族アイヌ人ですからね、アイヌ民族の権利を回復するという事をどっかで組み込む、となるとこれも連邦制に関係してくる問題になると思います。ですから道州制という枠の中では、日本国内の構造的な矛盾を解消できないくらい、今特に沖縄との関係、溝が広がっている。この辺ナントカしないとウクライナのような状況が日本国内でも生じるかもしれない。そして、それが尖閣諸島をめぐる日中間の対立を惹起しかねない、こういう複雑かつ危険な連立方程式が生まれつつあると私は見えています。

どうもありがとうございました。

文責：事務局

世界の政治・経済・社会問題の調査研究や情報提供、
 多様な分野間の交流や塾・セミナー事業の展開を通じて、
 今の時代を切り拓く人材の発掘・育成を図るため、
 「一般社団法人勁草塾」を設立しました。
 志を同じくする皆様のご参加をお待ちしています。

一般社団法人
 けいそうじゅく
勁草塾

会員募集中

「勁草」の名称は、後漢書の故事

「疾風知勁草（疾風に勁草を知る）」

＝嵐の中で、はじめてその人の志の強さがわかる

に由来しています。

年会費(1口=5千円)	個人 年1口 / 団体 年2口～
会費お振り込み先	神奈川銀行 蒔田支店 普通 5004278 一般社団法人 勁草塾(けいそうじゅく) 代表理事 齋藤 勁(さいとうつよし)

(社)勁草塾の組織構成のご紹介

理事会 6名(代表理事 齋藤 勁)
 顧問 明石 康(元国連事務総長特別代表)
 藤井裕久(元財務大臣)
 薬科満治(元参議院議員)

(社)勁草塾の加入お申し込み等は下記へお願いします。
 【事務局】〒105-0014 東京都港区芝3-41-8 駐健保会館内 TEL:03-6435-0745 FAX:03-3455-5973



(社)勁草塾
 代表理事 齋藤 勁

1945年、横浜市に生まれる。
 中学卒業後、横浜市役所に勤務しながら
 横浜商業高等学校校定時制卒業、
 神奈川大学第二法学部卒業。

- その後、
- 横浜市議会議員 (1987年～1995年)
 - 参議院議員 (1995年～2005年)
 - 衆議院議員 (2009年～2012年)
 - 内閣官房副長官 (2011年～2012年)

塾の開催
 首都圏(東京・横浜)で年4回程度の政治塾を開催。うち1～2回は、交流会併設での実施をめぐり会員間の情報交換に活かします。

政治家の発掘育成
 リベラルで清新な政治家を発掘・育成するための様々な支援事業を展開します。

国際研究交流事業
 諸外国のゲストによるシンポジウム開催等を通じて、グローバルな視座を提供します。

調査研究受託事業
 沖縄の米軍基地再編問題など「基地と雇用問題」に国民県民の視点から取り組みます。

講師の派遣・斡旋
 政治から自治体経営まで幅広いテーマの講師陣を全国各地のニーズに合わせて派遣します。

情報誌などの発行
 各事業の成果をフィードバックする情報誌や機関紙を発行し広く会員に問題提起します。

(会員は、情報誌の提供や、各種催し物の割引などの特典が受けられます)